

# 前立腺 に関する病気

前立腺は男性だけにある臓器で、膀胱のすぐ下にある胡桃の大きさ程度のものでその真ん中を尿道が通っています。前立腺は精液の一部である前立腺液を作っていますが、そのほかの働きはあまりわかりません。

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION

# BeWell

医師会からの健康だより

■発行／京都府医師会

これだけは知っておきたい  
健康の知識

VOL. **37**

## 「尿が出にくい?」

…それは、ひょっとして。

尿が出にくい!

**前立腺肥大症**

50歳代から要注意!

**前立腺がん**

患者数が増加!

### ■前立腺肥大症とは

前立腺は思春期に大きくなりますが、50歳を過ぎるころからさらに大きくなっていくことがあります。これが**前立腺肥大症**です。前立腺が大きくなりすぎると尿道が圧迫されて尿が出にくくなってきます。

また尿の切れが悪くなったり、残った感じがする、夜中に何回もおきてトイレに行くようになる、尿が出てくるまでに時間がかかる、などの症状があります。

### ■前立腺がんとは

**前立腺がん**は今最も注目されているがんで、アメリカでは男性のがんの中で最も多いがんです。日本でも患者数の増加率が最も高く、近い将来、肺がんについて2番目に多いがんになると予想されています。

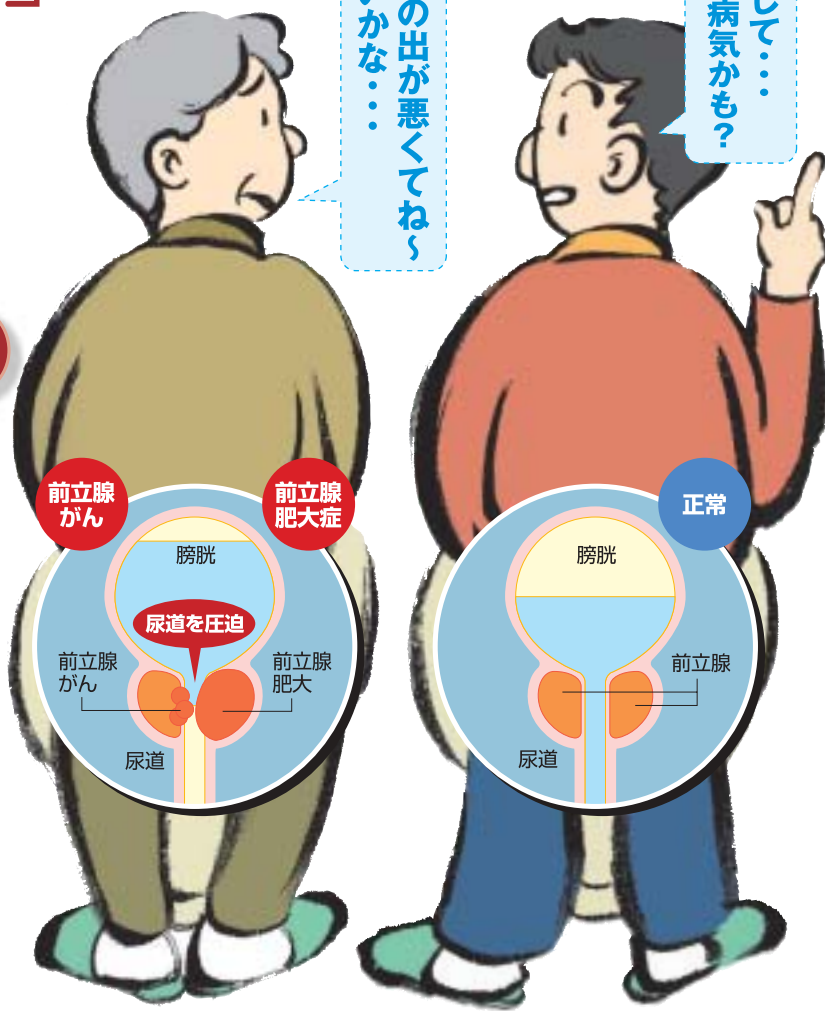
前立腺がんははじめのうちはほとんど症状がなく、尿が出にくいなどの症状が出たときに



はかなり進んでいる可能性があります。また骨に転移しやすく、腰痛などで整形外科を受診して初めて前立腺がんの診断がつくこともあります。しかし**前立腺がん**を早い時期に見つけることができれば、**手術療法や放射線療法で完全に治すことができます。**

最近、尿の出が悪くてねえ、歳のせいかな……

ひょっとして……前立腺の病気かも?



# 前立腺肥大症 に関する予防と治療

## 前立腺がん

### ■前立腺肥大症の治療は

一つ目の治療法は**薬物療法**で、最近では $\alpha 1$ （アルファワン）遮断薬と呼ばれる薬が中心で、効き目がすぐに現れて、副作用の少ない薬です。その他に抗男性ホルモン薬や植物製剤・漢方薬などを使う場合もあります。二つ目の治療法は**手術療法**で、尿がまったく出なくなった人や排尿した直後でも膀胱にたくさん尿が残っている人が手術の適応になります。尿道から内視鏡を挿入して前立腺を内側から削り取ってくる手術（経尿道的前立腺切除術）が中心ですが、その他に高温治療やレーザーを使った手術も行われています。



## 早期発見 早期治療

## 前立腺がんは PSA検査で

### PSA検査とは

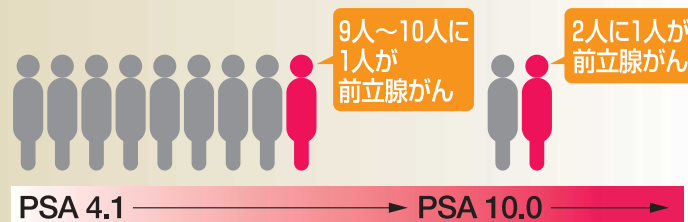
現在では血液検査で**PSA**（前立腺特異抗原）という腫瘍マーカーを測定することができるようになり、高い確率で早期の前立腺がんを発見することができます。PSAは前立腺の上皮細胞で作られる糖タンパクで、前立腺がんがあるとPSAが血液中に多く流れ出してくるので、血液検査でPSA値が高いと前立腺がんが疑われます。

### 前立腺がんの診断は

検査の結果PSA値が高い人は、**直腸診**（肛門から指を入れて前立腺の硬さや大きさを診ます）や**超音波検査**で精密検査をします。これらの検査で前立腺がんが強く疑われた場合は、**前立腺針生検**（特殊な針を刺して前立腺の組織を採取し、顕微鏡でがん細胞があるかどうかを調べます）を行って確定診断をつけます。

### 前立腺がん検診

1995年から行われている京都府乙訓地域の前立腺がん検診では、PSAが4.1~10.0ng/ml（グレーゾーン）で9~10人に1人、10.1ng/ml以上で2人に1人の割合で前立腺がんが見つかっています。1995年から2002年までの8年間にのべ28,692人がPSA検診を受診し、そのうち、約1,700人がPSA4.1ng/ml以上で精密検査が必要と判定され、最終的に187人のがんが発見されました（がん発見率0.7%）。



### ■前立腺がんの治療は

がんの広がり具合や患者さんの年齢、合併症の有無、希望などを総合的に判断して、治療方針を決めます。がんが前立腺の中だけにとどまっている場合は**手術療法**や**放射線療法**で完全に治る可能性があります。最近では早期発見が可能になったため、これらの治療法を選択するケースが増えています。また前立腺がんは男性ホルモンの作用で悪化します。この男性ホルモンを抑えることによって前立腺がんはよくなってきます。これが**内分泌療法**で、非常に有効な治療法です。除睾術（手術で精巣を摘出します）やLH-RHアナログと呼ばれる注射で男性ホルモンの生成を抑制したり、抗男性ホルモン剤（内服）で男性ホルモンの働きをブロックする方法があります。前立腺がんはその成長が非常にゆっくりであることも特徴のひとつで、ごく小さながん（微小がん）の場合はあわてて治療しなくてもよいことがあります。これが**ウォッチフル・ウエイティング**（十分に観察しながら待機する）という考え方で、定期的にPSA検査をして経過を観察していきます。

前立腺がんは急激に増加していますが、内分泌療法が非常に有効で長い期間にわたってコントロール可能で、また早期がんも見つけることができるようになりました。50歳を過ぎたら怖がらずに泌尿器科医またはかかりつけの先生にご相談ください。

## 京都府医師会

〒604-8585 京都市中京区御前通松原下ル TEL:075-312-3671 (代表)  
 <ホームページ>http://www.kyoto.med.or.jp <E-mail>kma26@kyoto.med.or.jp  
 ●発行 SPRING 2005●